


市長のタウンミーティング 片貝地区

(敬称略)

	開催日時	平成29年10月17日(火) 19:00～21:00
	会場	片貝公民館
	参加人数	34名
	開会挨拶 書記	片貝地域振興会長 伊藤甚宰 黒田航平

市政への提案、意見

番号	地区名	項目	内容
1	片貝	まちづくり	振興会にて新潟県小千谷市の視察研修を行った。閉校後の小学校が、市教育委員会所有の宿泊可能な青少年の家として合宿などを行うことができる施設として大いに活用されているようであった。今後、片貝地区の定住プロジェクトにおいても、片貝公民館の2階部分を活用したいと考えている。費用対効果は検討しつつだが、今後相談に乗ってほしい。
2	片貝	教育環境	平成30年度から片貝での学童保育がなくなるのであれば、地区の子供が放課後に過ごす場所や公民館の活用について、何か方策を考えてほしい。
3	片貝	まちづくり	中山間地第4期対策について。イノシシによる作物の被害が相次いでおり、農地の管理を継続するのが困難な方もいる。しかしながら、事業において管理を放棄することもできない。なにか対策はないか。
4	片貝	その他	人口減少に対する施策について、町内でもたくさんの独身者がいる。子育てのできる環境の整備も大事だが、独身者に対して出会いの場を作るような取組をしてほしい。
5	片貝	まちづくり	富山市では、ファミリーパークなどで、祖父母と孫と一緒に利用すると、施設利用料が無料になるといった取組みがあり、自分も孫と出かける際は利用している。魚津市でもぜひ、そのような取組みをしたらどうか。
6	片貝	まちづくり	貝田新にある円筒分水を市外の人が見学に来ているのを見かけ、声をかけたことがある。東山の円筒分水のことは知らなかったと言っていた。片貝の洞杉など、インターネットでいくらでも情報を得ることはできるが、もっと市内に分かりやすい案内板や、パンフレットがあればよいと思う。農業研修などで、多くの大学生が市内を訪れている。大学関係者から、片貝川のきれいな水の素晴らしさについて驚いた、という話を聞いて、もっと魅力を発信することが重要と思った。

平成29年度 市長のタウンミーティング実施報告書

地区名	片貝地区	日時	10月17日(火) 19時00分より 21時00分まで	参加者数	34名
会場名	片貝公民館	司会	企画政策課 上田 哲也	書記	市民課 黒田 航平
市側の出席者	市長 村椿 晃 企画総務部長 川岸 勇一 企画政策課長 赤坂 光俊 ほか		地区からの 主な参加者	地域振興会長、公民館、各種団体の長ほか	

1. あいさつ

地域振興会長 伊藤甚宰

2. 市長談話

市長 村椿 晃

魚津市の現状、「子育て」「教育環境」「まちづくり」について

○うおづのうまい水モンドセレクション最高金賞受賞報告と片貝について

○人口について

- ・魚津市の現状
- ・人口減を克服するために
- ・片貝来られプロジェクトについて

○子育てについて

- ・安心して産み育てる環境の整備
- ・仕事と家庭の両立等
- ・経済的負担の軽減

○教育環境について

- ・小学校英語教育の推進
- ・教育用ICT環境整備
- ・通学の安全、安心対策

○まちづくりについて

- ・定住、空家対策

○災害に強いまちづくりについて

(浸水対策、津波ハザードマップ、ミサイル)

- ・ハード対策
- ・情報伝達体制の強化
- ・防災力の向上

○健康寿命の延伸について

- ・魚津市民の健康(がん死亡率等)

3. 意見交換（地区からの振興策等の提言・提案等について）

○旧片貝小学校の利用について（まちづくり）

先日、振興会にて新潟県小千谷市の視察研修を行った。閉校後の小学校が、市・教育委員会所有の宿泊可能な青少年の家として、合宿などを行うことができる施設として大いに活用されているようであった。今後、片貝地区の定住プロジェクトにおいても、公民館の2階部分をなんとか活用したいと考えている。もちろん費用対効果は検討しつつだが、今後相談に乗ってほしい。

（村椿市長）

数日前、出張で名古屋を訪れた際、大学女子野球の参加校を訪問しました。話を聞くと、やはり合宿等で宿泊する場所、練習場所の確保に苦慮していると聞きました。全体のニーズを確かめつつではありますが、合宿場所、定住施設、都心に事務所を構えるIT企業等の福利厚生のための施設として等、新しく立派な建物であるこの公民館を活用することができると思っています。しかしながら、大事なものは、場所を作ることではなく、受け入れる側の地域の人々の気持ち、地元の盛り上がりであり、それが人を動かす力になることも理解してほしいと思います。

○片貝地区の学童保育の今後について（教育環境）

片貝地区の学童保育の今後について、市の説明会に参加した。学童保育の利用者や、支援者数の減少により、現在の体制を維持することが困難となったため、今年度をもって地区の学童保育を終了する予定であるとの話であった。かわりに、ひばり児童センターへ、とのことであったが、定員オーバーの状況となっているとの話もあり、じゅうぶんな対応が受けられるか不安である。地区に学童保育を残してほしいという気持ちに対して、山にこだわらず、街に行くのも考えてほしい、市財政のコストカットになる、家庭で工夫すべき、と回答され非常に残念であった。

来年度から学童保育がなくなるのであれば、地区の子供が放課後に過ごす場所や、公民館の活用について、何か方策を考えてほしい。

（村椿市長）

制度自体の話とすると、利用者数の減少で、国からの補助の関係により、現在の仕組みで続けるのは困難、というのは事実であります。

しかしながら、こどもの居場所作りという問題について、地域と協力してという形で、考えるべき課題と思われるので、来年度に間に合うよう検討します。

○イノシシに被害について（まちづくり）

中山間地第4期対策について。イノシシによる作物の被害が相次いでおり、農地の管理を継続するのが困難な方もいる。しかしながら、事業において管理を放棄することもできない。なにか対策はないか。

（村椿市長）

有害鳥獣による被害は、全国の山間の集落がどこも悩まされる問題であり、これが、という対策はなかなかありません。

「捕獲」という点については、従来の魚津市だけでは、担い手不足等の問題がありましたが、県において、市町村の枠組みを超えた団体を作る取組みに着手しています。市町村

間の調整等もあって軌道に乗るまで時間がかかるとは思いますが、期待しています。

「駆除」という点については、電気柵の設置について、どうしても自己負担してもらう部分が出てきます。年度ごとに重点エリアを分けて予算付けするという方法も考えられますが、いずれにしても自己負担してもらう部分があるので、慎重に検討していきます。

一番の方法は、農地の後継者、担い手を育成し、常時農地の管理が行き届く状況になることであるとは思いますが、難しいのが現状であります。

○独身者の出会いの場づくりについて（その他）

道坂地区の道路融雪パイプについて、長年要望していたが、ついに今年の冬から利用できる状況になった。とても感謝している。

人口減少に対する施策について、自分の知りうる限り、町内でもたくさんの独身者がいる。子育てのできる環境の整備も大事だが、その手前、独身者に対して、行政のかかわりがどこまで可能かは分からないが、出会いの場を作るような取組みをしてはいいかか。

(村椿市長)

もちろん強制はできませんが、結婚し、家庭をもつということ、その尊さや素晴らしさを、知らせていくことが必要と考えています。家庭をもつことについて、メリットなどを分かってもらえたうえで、出会いの場を設けていく、両面での取組みが重要であります。お見合いのプロジェクトについて、民間の企業と協力して取組みを行っているものもあります。

○祖父母と孫と一緒に施設を利用した場合の施設利用料の無料化について（まちづくり）

富山市では、たとえばファミリーパークなどで、祖父母と孫と一緒に利用すると、施設利用料が無料になるといった取組みがあり、自分も孫と出かける際は利用している。魚津市でもぜひ、そのような取組みをしたらどうか。

(村椿市長)

富山市長からそのような制度があると聞いたことがあります。施設の利用調整等で準備が必要であるが、ぜひ取組みをしていきたいと思えます。

○魚津の魅力の発信について（まちづくり）

貝田新にある円筒分水を市外の人が見学に来ているのを見かけ、声をかけたことがある。東山の円筒分水のことは知らなかったと言っていた。片貝の洞杉など、インターネットでいくらでも情報を得ることはできるが、もっと市内に分かりやすい案内板や、パンフレットがあればよいと思う。

農業研修などで、多くの大学生が市内を訪れている。大学関係者から、片貝川のきれいな水の素晴らしさについて驚いた、という話を聞いて、もっと魅力を発信することが重要と思った。

(村椿市長)

片貝来られプロジェクトにおいて、水についてクローズアップしたPRを柱にするのもひとつの方法だと思います。自然の素晴らしさ、水の素晴らしさをアピールするため、移住者に向けて水循環ツアーを地元の人が開催するのも面白いと思います。PRには、片貝だからこそ、というのが重要。移住者に来てもらって、自由に過ごしてもらうのでは

なく、地域の何かにかかわってもらい、いっしょに取り組むということが重要と考えています。

○おわりに

(村椿市長)

高齢者の増加、福祉の問題等、市の課題はまだたくさんあるが、今はまず、街に活力を生むこと、人口減少への対策が一番と考えている。地域に人をよぶ、子供を育てる、そういった取り組みを応援していきます。